

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鳥取県立総合療育センター 医療型児童発達支援センター のびっこワールド		
○保護者評価実施期間	2024年12月20日 ~ 2025年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年2月12日 ~ 2025年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園を通して、活動場で分かる子どもの成長や困り感などを保護者と共有しながら支援が行えている	活動場面以外にも療育ノートの活用や個別での相談を行っている	・引き続き、療育ノートも活動しながら、保護者の相談や悩みに対応し、都度アドバイスをを行う。相談内容によっては、相談支援専門員と連携を取りながら、適宜面談等行い寄り添っていく
2	本人の発達ニーズと保護者の意向を踏まえた個別支援計画を作成し、本人の実際の発達状況や生活の様子に沿った評価及び支援を多職種で行っている	児童の総合的な発達を促すため、5領域の視点を取り入れた課題整理表及び個別支援計画を作成しており保護者に分かりやすい記載と説明を行うように努めている。また評価には標準化された各種バッテリーと保護者アンケートを採用している	インフォーマルアセスメントについて、毎日職員間で共有を図っているが、勉強会やコンサルテーションを活用した職員のスキルアップを継続的に行う必要がある
3	他機関との連携は、療育に携わる専門職が同席し会議を設け共通理解を図っている	・個別支援会議は、支援スタッフに加え、主治医、相談支援、就園先、担当地域の保健師等も参加し、移行の際は就学先とも移行支援会議を行っている ・西部圏域事業所意見交換会を行い、地域の事業所との連携を図っている	・児童発達支援管理責任者を中心に障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に参画しているが、他スタッフが参画する機会も設けていく ・児童発達支援事業所同士の交流の機会は設けているが、児童発達支援センター間の連携は不十分であり、次年度連携を強化していく
4	ペアレントトレーニングはのびっこ版で行っている。保護者勉強会や交流会を通じ保護者同士の交流を促進している	事前に計画を立てて取り組んだり、その日の利用者に合わせたペアレントトレーニングや保護者会などを取り入れたりしている	同じ発達年齢や疾患、同じ悩みを共有できるようセッティングし、活動と同時並行で保護者支援を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	インフォーマルなアセスメントについては特に職員間の差をミーティング等で埋める必要がある	アセスメントを適切に運用できる職員のスキルアップ	インフォーマルなアセスメントについては特に職員間の差をミーティング等で埋める必要がある。活動後の振り返りや記録等でアセスメント方法の共有に努めると共に、外部への研修参加なども行っていく
2	危険を予知し、安全確保を予見し対応を行う必要がある	危険を予知し、安全確保を家族と対応を行っているが、予想を超える事案も起きており、インシデント0レベルでの対応が必要である	インシデント（ヒヤリハット）0レベルでの対策検討やKYT（危険予知訓練）を行い、職員の危険意識を向上させていく